

いにしえの讃岐

特集

讃岐国府跡探索事業

ミステリーハンター活動報告

—地籍図を探る—



●土器焼き（坂出市立府中小学校）
文化ボランティア撮影

●考古学講座「石に魅せられた狩人たち
～四国の旧石器時代～」



No.64 2009. 冬

発掘現場だより

津森位遺跡

つのもりくらいいせき

2009年6月～2009年10月 丸亀市津森町



津森位遺跡は、丸亀市の北西部、県立丸亀城西高校のすぐそばにある遺跡です。県道多度津丸亀線の建設に伴って発掘調査を行いました。

調査の概要

最も東側の1区から3区にかけては、平安時代中期（10～11世紀）ごろの溝状遺構が10数箇所見つけられました。10世紀前半ごろに京都で作られた緑釉陶器の椀や、津森位遺跡の南500mにある田村廃寺（8～10世紀）で使用された瓦類が出土していることから、周辺に有力者の存在がうかがえ、当時から栄えていたことがわかります。

また、室町時代（14～15世紀）ごろの井戸跡や江戸時代に掘られた「土坑」と呼ばれる大きな水溜め用の穴も見つかっています。土坑は13基もあり、いずれも直径が2m前後と大きなものです。いつの時代にも、水の確保に人々が腐心したことがうかがえます。

最も西側の4区では、やはり溝状遺構が見つっていますが、こちらは弥生時代後期ごろのもので、灌がい用の水路として掘られたものです。溝の中からは、波状の絵が描かれた線刻土器が出土しています。

まとめ

津森位遺跡の西側には、弥生時代の溝状遺構などがみついている新田橋本遺跡や今津中原遺跡などがあることから、遺跡一帯に灌がい水路網が張りめぐらされていたことが推測できます。

古代になると、津森位遺跡以西には、ほとんど遺跡が確認されないことから、たびたび河川の洪水におそわれていた荒野であったものと考えられます。おそらく、津森位遺跡から田村廃寺周辺が、この当時、最も栄えた地域であったと考えられます。

建物跡など、直接人々の生活に関わる遺構が見つかってはいませんが、溝状遺構の分布などから、丸亀平野の土地利用の歴史を解明するヒントを与えてくれる遺跡です。



1区全景



2・3区全景



溝状遺構が縦横にめぐらされているようすがわかる？
ミステリーサークルのように丸く見える穴は、江戸時代の土坑だよ。土坑は、かたまって掘られていることがわかるよね。どうしてかな？



4区全景



遺跡報告会のようす

調査の概要は、現地説明会や遺跡報告会などで、説明をしました。現地説明会では暑い中、多くの方に見学いただき、報告会にも熱心な考古学ファンが大勢、聴講されました。

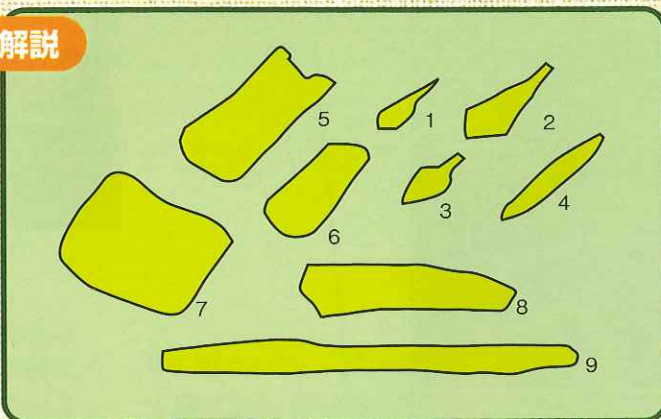
弥生時代の最先端技術(鉄器をつくる)

弥生時代中期後半(約2,000年前)に、日本列島で鉄器の生産が開始され、旧石器時代から使用されてきた石器は次第に鉄器と交代していきます。発掘調査で明らかになった弥生時代の鉄器生産技術を紹介します。



県内の弥生時代の遺跡から出土した代表的な鉄器

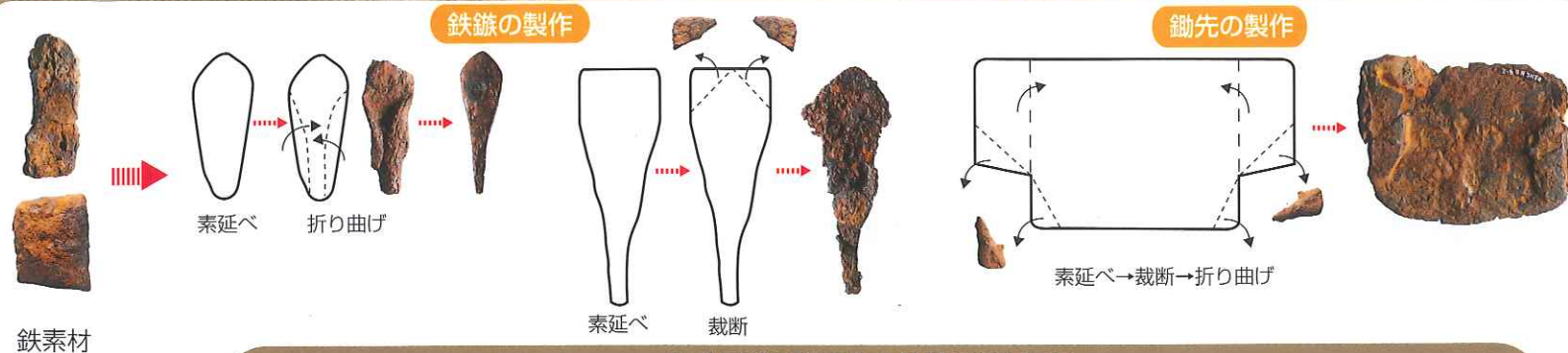
上の写真の解説



- 1～3. 鎌(やじり)
- 4. ヤリガンナ(細かく木を削る)
- 5.6 斧(荒く木を削る)
- 7. 鋤先(土を掘り下げる)
- 8. 鎌(稲を刈り取る)
- 9. 刀子(万能ナイフ)

写真の鉄器が出土した遺跡

- 1.3 原間遺跡(東かがわ市)
- 2. 加藤遺跡(さぬき市)
- 4.6 旧練兵場遺跡(善通寺市)
- 5. 寺田産宮通遺跡(さぬき市)
- 7. 稲木遺跡(善通寺市)
- 8. 樋端遺跡(東かがわ市)
- 9. 鹿伏・中所遺跡(三木町)



弥生時代に代表的な鉄器の製作工程

厚みのある鉄板状の素材を鍛冶炉で加熱し、粗く延ばします。鉄製の鑿をつかって、不要な箇所を裁断したり、折り曲げて成形していきます。鉄器を生産した遺跡からは、製作途中の鉄器や裁断された三角形の鉄片が多く出土します。



弥生時代の鍛冶作業の想像図

弥生時代には石のハンマーや台を使って、素材となる鉄を鍛えて、さまざまな鉄器が生産されました。送風装置、送風管である鞆や羽口が出土していないことから、皮袋や竹などの有機質のものを使って、炉に送風していたと考えられています。



鉄器の生産を行った竪穴住居跡

下川津遺跡(坂出市) 弥生時代後期(約1,800年前)
写真中央の熱をうけて赤くなっているところが鍛冶炉です。



鍛冶炉の様子

下川津遺跡(坂出市) 弥生時代後期(約1,800年前)
熱をうけて赤くなっている部分は炉の土手で、中央の黒い箇所は、燃料用の炭です。

ミステリーハンター活動報告ー地籍図を探るー

調査開始から、明治時代初めの地籍図の調査を行ってきました。
今回は、その成果の中間報告です。

先人は水の得やすい低い所を水田にし、洪水被害を受けない小高い所に住むなど、自然に順応して暮らしてきました。そこで、ミステリーハンターは、「地形調査」として綾川下流域の平野の地形の成り立ちを調べています。地形調査には、水田や畑の分布等を調べる方法があります。しかし、讃岐の平野は、全域を水田にする場合が多く、細かな地形を読み取ることができません。そこで注目したのが明治時代初めに作られた地籍図です。

地籍図は、土地一筆ごとの地番、水田や畑といった地目等を記した地図です。江戸時代は藩ごとに年貢を徴収していましたが、明治政府はこれを一元化するために各県に地籍調査を命じます。しかし、この地籍図は町村合併などの際に廃棄されることがあり、県内でどの程度残っているのかよくわからないのが現状です。今回、坂出市林田町、加茂町と府中町の一部の地籍図が残っていることがわかり、調査を行いました。

地籍図と地形調査の関連について解説します。

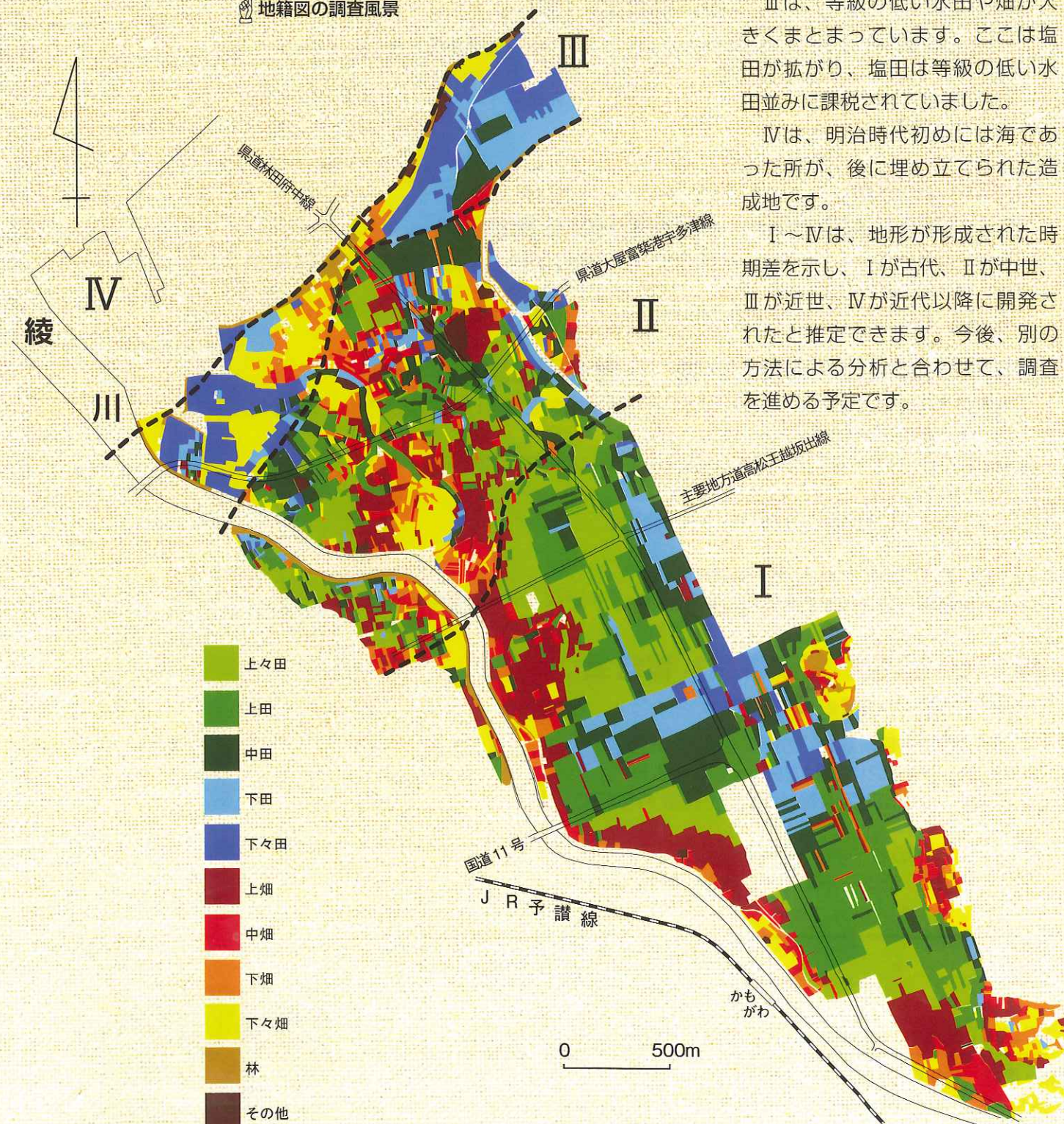
地籍図には、地目のほかに上田、中田などの地位等級が記されています。この上とか中というのは、作物の収穫量の差に基づきますが、収穫量が多い上田は水をコントロールできる乾田、少ない下田はコントロールが難しい湿田である傾向が認められます。つまり、地目と地位等級の分布を調べれば、土地の高低の差が浮び上るのです。



分析作業をするミステリーハンター



地籍図の調査風景



綾川下流域の平野は4つに大別できます。

Iは、古代に施工された条里の地割が拓がる地域です。ここでは地目や等級に地形のまとまりを示す明瞭な分布は見られません。土地が平坦化し、地形の細かな違いが地表面に現れていないようです。

IIは、不定形の耕地からなります。等級の低い所が帯状に連続している所は、川の跡です。IIは土地の微かな起伏が明瞭で、宅地が狭い範囲に密集する傾向も見られます。（宅地は上畑並みに課税されたことから、畑として登録されています。）

IIIは、等級の低い水田や畑が大きくまとまっています。ここは塩田が拓がり、塩田は等級の低い水田並みに課税されていました。

IVは、明治時代初めには海であった所が、後に埋め立てられた造成地です。

I～IVは、地形が形成された時期差を示し、Iが古代、IIが中世、IIIが近世、IVが近代以降に開発されたと推定できます。今後、別の方法による分析と合わせて、調査を進める予定です。

「讃岐国府跡探索事業」 関連行事のお知らせ

■ 展示

讃岐国府跡を探る ―平成21年度の調査―

「讃岐国府跡探索事業」の調査成果を展示します。

期 間：平成22年1月14日（木）～5月7日（金）

場 所：香川県埋蔵文化財センター第2展示室

観覧料：無料



■ パネル展示

讃岐国府ミステリーハンター奮闘記（仮）

「讃岐国府跡探索事業」の調査を担うミステリーハンターの活動をパネル展示で紹介します。

期 間：平成22年1月25日（月）～1月29日（金）

場 所：香川県庁 東館1階ギャラリー（高松市番町4-1-10）

観覧料：無料

■ 考古学講座

地名が語る讃岐国府跡 ―讃岐国府跡を探る①―

現在に残る地名や、江戸時代の地名が記された資料などから讃岐国府跡を読み解きます。

日 時：平成22年2月6日（土） 10:30～12:00

講 師：松本和彦（香川県埋蔵文化財センター 文化財専門員）

讃岐国府跡周辺の地形と景観 ―讃岐国府跡を探る②―

地籍図や検地帳の分析などから、かつての地形や景観を復元し、讃岐国府との関係を考えます。

日 時：平成22年2月27日（土） 10:30～12:00

講 師：木下晴一（香川県埋蔵文化財センター 文化財専門員）

いずれも

場 所：香川県埋蔵文化財センター 講習室

参加料：無料

定 員：30名（申し込み先着順）

※電話・Eメールでお申し込みください。天候がよければ現地もご案内します。

■ 「讃岐国府跡探索事業」 報告会

古代の県庁・国府を探る

「讃岐国府跡探索事業」の成果を報告します。

日 時：平成22年3月13日（土） 13:30～

場 所：坂出市万葉会館（坂出市沙弥島字南通70-1）

参加料：無料

定 員：100名（申し込み先着順）

※電話・Eメールでお申し込みください。

